

# 令和6年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立日田支援学校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定</li> <li>* 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解</li> <li>* 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼</li> </ul>	校長は「学校の使命」を明確にした学校教育目標、重点目標等を設定しており、時代のニーズに対して具体的かつ明確な運営ビジョンが打ち出されている。学校運営等の方針は教職員全般に浸透し始めており、教育課程の見直し等喫緊の課題に対しての組織的な取組は評価できる。
	2 組織的運営・責任体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 教育目標、学校運営計画との一致</li> <li>* 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能</li> <li>* 幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備</li> </ul>	教育目標、学校運営計画が適切に整備されており、主幹教諭を中心としたミドルリーダーが要となり、教育課程の改善を軸に一貫性のある指導の構築が図られており、今後の実践に期待したい。
	3 服務監督・危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備</li> <li>* 事件・事故発生時に迅速に対応するための実効性のある訓練や研修の実施</li> <li>* ヒヤリハット報告（医療的ケアを含む）の迅速な情報共有体制の整備</li> </ul>	大雨対応訓練を中心に緊急時対応訓練が適切に行われており、実際的大雨に対して的確な対応がとられていたことは評価できる。ヒヤリハット報告は適切に取りまとめられているが、ヒヤリハットの内容については、教職員での共通認識を図る取組が望まれる。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組</li> <li>* 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組</li> <li>* 地域・企業・関係機関と連携・協働した取組</li> </ul>	教育支援相談会の実施やホームページの更新等を通して、適宜情報発信を行っている。地域の梨園との連携が積み重ねられており、地域との協働が図られていることは評価できる。
	5 センターの機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組</li> <li>* 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組</li> </ul>	巡回相談を適切に実施していることを確認することができた。
学習指導	1 授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践</li> <li>* チーム・ティーチングのよさを生かした指導の実践</li> <li>* 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫</li> <li>* 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組</li> </ul>	PATHの取組を継続的に実施し、児童生徒、個々の目標等の共通理解が図られ、教師が工夫しながら指導を行うことは評価したい。チーム・ティーチングについての意識改善が図られているが、今後の更なる改善に期待したい。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善</li> </ul>	「なりたい自分」の実現に向けた自分ノートの作成や、PATHミーティングの実施等を通して、本人・保護者のニーズを把握し指導を行っていることは評価したい。今後は個別の指導計画への評価と改善がより図られることに期待したい。
	3 授業研究・授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 計画的な授業研究の実施等による、組織的な授業改善への取組</li> <li>* 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践</li> </ul>	授業改善及び教育課程改善を目的に、授業グループや縦割りによるミーティングが実施されていることは評価できる。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組</li> <li>* 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導</li> <li>* 定期的な職場訪問等による状況把握、定着支援</li> </ul>	各学部段階で育てたい力を整理し、自分ノートや就労チェックリストを活用しながら進路指導が行われている。定期的な職場訪問を行い、企業と連携を図りながら定着支援が行われている。
	2 職場開拓・就業体験の機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 福祉・労働等の関係機関との情報共有、連携</li> <li>* 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組</li> <li>* 作業学習等の学習の工夫・改善への取組</li> <li>* 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実</li> </ul>	校内に地域の職場マップが掲示されており、関係機関及び企業との連携が図られていることは評価したい。梨園との協同等、地場産業との連携が図られているが、今後はより一層の連携に期待したい。
豊かな心・健やかな体の育成	1 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携</li> <li>* 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組</li> <li>* 情報モラル等、社会生活に必要な課題に対する適切な対応</li> </ul>	教職員間での話し合いの文化が築かれており、組織的な生徒指導を行うことができている。今後は情報モラルといった時代のニーズに沿った課題に対する指導の充実に期待したい。
	2 教育相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携</li> <li>* 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組</li> </ul>	スクールカウンセラー等、外部の専門家との連携は図られている。
	3 特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組</li> <li>* 交流及び共同学習への積極的取組</li> </ul>	年3回、近隣の学校や居住地の学校等との交流及び共同学習に取り組んでいる。
	4 安全管理・医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 幼児児童生徒の健康管理のための取組</li> <li>* 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り</li> <li>* 校内の医療的ケア実施体制の整備</li> </ul>	医療的ケアについては、校内の実施要項が定められており、適切に実施していることは評価できる。
総合評価	校長をはじめミドルリーダーが時代のニーズに沿った教育環境の改善に取り組んでいる。学部主事や分掌主任が重点目標等を自分事として捉え、教育課程の見直しや働き方改革といった喫緊の課題に対しても組織的な対応が図られている。近年頻発する自然災害に対する認識が深く、即応体制が維持できていることが感じられた。授業では、児童生徒の特性に応じた指導の工夫が見られ、落ち着いた雰囲気で見守りながら児童生徒が授業に参加をしていた。今後は、教師の指導の工夫等を個別の指導計画に明示し、個別の指導計画の実用性を高めることに期待したい。進路指導では、訪問や面談等を通じてフォローアップ体制が構築されており、校内に職場MAPを掲載するなど児童生徒や保護者に対する情報提供も積極的に行われている。地域の拠点となる特別支援学校として、児童生徒一人一人の将来に展望が開けるように関係機関との連携の強化を行い、今まで以上に積極的な職場開拓と定着支援に期待したい。		
校長コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長のリーダーシップの下、学校教育目標を念頭に、主幹教諭をはじめとしたミドルリーダーを中心として、教職員自らが能動的に行動することが求められている。そのためにも校長が先頭となって児童生徒を中心に置いた学校の組織的運営に努力していく。</li> <li>・児童生徒それぞれの「なりたい自分」の実現には、各々の実態に応じた授業計画と学習場面の設定が欠かせない。そのためにも、所属学部の区分けをしない職員研修の実施と、それを基盤とした教員一人一人の専門性と指導力の向上に、全教職員を挙げて取り組んでいく。</li> <li>・本校の立地している地域性を考慮し、なお一層の就労先の開拓が必要と考える。併せて、卒業後の追支援を基盤とする就労定着、および離職者に対する支援を、地域社会や地域産業と連携して行っていきたい。</li> <li>・児童生徒は、情報化社会という変化が速く、真偽が明確とは言えないような時代を否応なく生きることになる。リスクを理解した上で、正しい情報の発信者となるよう、情報教育の充実に努めたい。</li> </ul>		